

学びを社会へつなぐ探究活動

～特色ある教育の推進～

北海道おといねっぷ美術工芸高等学校 学級数3 (校長 菊地 裕幸)

□ 実践の概要

地域や企業との連携・協働を通じ、生徒の創造物（作品やデザイン）が実社会で人々の心を豊かにし、課題を解決し、歴史・文化を継承し、新たな価値を創造する喜びを生徒が体験することで、自らが社会に有為な人材であることを深く実感できる学びの場の構築を推進する。

1 実践の目的

生徒の「作りたい・表現したい」を出発点に自らの創造物における表現の在り方を追究し、作品を通じて地域や他者の課題を解決するため、校内組織である「魅力化推進チーム」が中心となり、生徒の作品を価値付ける外部との連携・協働を進めることで、「総合的な探究の時間」の充実や主体的に学ぶ力の育成を図る。

2 実践内容

(1) 実施計画

- ① 地域との連携・協働（音威子府村と通年実施）
- ② 企業との連携・協働（株式会社セコマ、J R北海道及び荒井建設株式会社と、通年実施）
- ③ ボランティアプロジェクト（4月～10月）

(2) 取組の具体

- ① 音威子府村
 - ・ふるさと納税の返礼品の制作（木製コースターとポストカード）
 - ・村長の名刺のデザイン制作
 - ・公共施設や宿泊施設等での生徒作品の展示
 - ・学校間連携（幼・小・中・高）による交通安全啓発キーホルダー制作・配布
- ② 株式会社セコマ
 - ・セコマ会員限定ポイント還元商品の制作（木製コースター）
 - ・セコマ年賀状のデザイン制作
- ③ J R北海道
 - ・急行列車「秋たびそうや」号のヘッドマーク制作
- ④ 荒井建設株式会社
 - ・「まちかど美術館」による生徒作品の展示
- ⑤ ボランティアプロジェクト
 - ・病気療養中の子どもたちへの支援具や絵本等の制作・寄贈
 - ・学校紹介用ガチャ作品（おと高ガチャ）の制作・活用

(3) 取組後の点検・評価、工夫改善

自身が制作した作品が他者や地域で活用される経験を通して、生徒に社会貢献の意識と主体性が育まれた。今後、これらの活動を持続可能なものとするため、外部との連携を一層強化する。

(4) 改善に向けた取組

今年度、学校運営協議会を小中学校とともに設置した。コミュニティー・スクールとして、地域資源や地域人材、地域教育力を大いに活用し、外部との連携・協働を一層強めていくことで、本取組を地域とともに充実・発展させていく。

3 実践のポイント

- ・生徒が地域と連携した活動に参加し、学校の特色を生かした学びの推進を充実させたこと。
- ・自らの作品に対する探究の成果が社会や地域で活用される経験の場を継続的に教育活動へ取り入れたこと。
- ・他者や社会を意識した創造的な学びの場を整え、学習意欲や創造性の育成につなげたこと。
- ・在校生のほとんどが村外出身者であるが、生活している地域の自然環境や歴史、伝統、文化、産業等について理解を深めるとともに、地域への愛着や誇りを育み、音威子府村に貢献する意識を醸成したこと。



【ふるさと納税返礼品】



【列車のヘッドマーク】